

2024年登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格認定試験

二次試験（その2） 問題・解答用紙

注意事項

- ① 二次試験（その2）は、No.3、No.4、No.5の3問で、解答時間は3時間15分（195分）です。
- ② 問題用紙（下書き用紙含む）は、No.3が2枚、No.4が2枚、No.5が2枚で合計6枚です。
解答用紙はNo.3が1枚、No.4が1枚、No.5が1枚で合計3枚です。
- ③ 問題は全問必須ですから、3問すべてに解答してください。
なお、配点はNo.3が20点、No.4が20点、No.5が20点で、60点満点です。
- ④ 解答用紙の全ページに受験番号をご記入ください。
- ⑤ 問題用紙、解答用紙はのり付けを切り放して使用してください。
- ⑥ 解答は、解答用紙に黒の鉛筆、シャープペンシル、またはペン等で記入してください。
下書き等に色を使用してもさしつかえありませんが、色を使った表現を解答した場合はその表現はすべて採点対象外となります。また、下書き用紙への記述はすべて採点対象外です。解答は解答用紙のみ記入してください。
- ⑦ 問題用紙の余白、下書き用紙は、計算等に使用してもさしつかえありません。
ただし、解答用紙には、計算等解答に関係のない記述はしないでください。
- ⑧ なお、二次試験（その2）は、No.3、No.4、No.5のそれぞれの採点結果を合計して評価いたします。
いずれかの採点結果が著しく低い場合は合格に至らない場合があります。
- ⑨ 試験終了後は、解答用紙をページ順に並べ、机の上に置いてください。係員が回収するまでそのままお待ちください。
- ⑩ 問題用紙は、試験終了時刻まで在席した方のうち、希望者に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席した場合は、持ち帰ることはできません。

No. 3 造成・排水設計図を作成しなさい

(配点：20点)

■出題テーマ

高低差を繋ぐ通路となだらかな地形を創造する、雨庭を導入した造成排水設計

■設問

設計対象地の住宅団地は、郊外に位置しており、団地造営後40年が経過し、団地再生に向けた取り組みが行われている。

本設計は集会所の改修に伴い、集会所北側の屋外空間の利活用を図るため、北側街区のプレイロットと集会所及び南側街区を繋ぐ通路の設計、斜面地の造成設計及び排水設計を行うものである。

斜面地の雨水排水は、設計する通路に沿って配置すると共に必要箇所に設置する設計とし、法尻付近に「雨庭」を配置し、グリーンインフラの一部を担う施設とする。雨庭は雨水を一時的に貯留し地中に浸透させる構造として、別途地表部に植栽も計画している。

以下の設問について、敷地条件と設計条件を満たす平面図と断面図を解答用紙に記入しなさい。

設問1. 造成設計：北側街区と集会所・南側街区を繋ぐ斜面地に通路と、それに伴う斜面地の設計をしなさい。高低差をなだらかな地形となるように造成設計しなさい。

設問2. 通路設計：A地点とB地点を結ぶよう、5%以下の通路を設計しなさい。

設問3. 排水設計：①斜面地の雨水は通路沿いや必要となる箇所に排水施設を設置しなさい。②集会所北側に雨庭を設置して、斜面地の雨水を排水しなさい。雨庭の余剰水はオーバーフロー桝から雨水人孔に排水施設で接続しなさい。③集水桝1は西側斜面地などの雨水排水を集水し、集水桝2に接続したうえで集水桝3に繋げる排水設計をしなさい。

■敷地条件

- 北側街区と南側街区の間に斜面地が形成されており、団地造営当初から斜面地に繋がるように保存樹林地が残されている。
- 集会所東側には、設計対象地の雨水を放流できる雨水人孔が整備されている。

■設計条件

下記の設計条件に従い、設計を行い平面図と断面図を作図しなさい。

1. 造成設計

- 凡例に従って計画等高線は25cmコンタとすること。
- 斜面地はなだらかな曲面造形の地形とし、擁壁またはそれに類する構造物は設けないこと。
- 造成地内に保存樹木がある場合は、生育を妨げないように配慮し、樹木の保全を図る造成計画とすること。

2. 通路設計

- 通路の有効幅員はW=2.0mとする。
- A地点の標高は標高10.00m、B地点の標高は11.90mとする。
- 通路部には高低差75cm以内毎に長さ1.5m以上の踊り場を設け、その舗装仕上げ高さ(m単位)を小数点第2位まで記入、通路内の各区間の平均勾配(i=〇.〇%)、延長(L=〇.〇m)を小数点第1位までを図示すること。
- 通路整備に伴う擁壁またはそれに類する構造物は設けず、転落防止のための施設や手すり等も設計対象外とする。

3. 排水設計

- 通路に沿って排水施設(側溝や集水桝)を適切に設けなさい。
- 斜面地の雨水排水は、雨庭に排水すること。
- 集会所の北側に約80㎡の雨庭を設け、その施設範囲を図示しなさい。

- 集水桝2から雨水人孔をつなぐ排水ルートを設計しなさい。また、この排水ルート上に集水桝3を設け、さらにオーバーフロー桝からの排水を集水桝につなげなさい。雨水排水管はVUφ150とし、勾配は1%とする。
- 集水桝3はその天端高さと管底高さ(m単位)を求め図右下の()内に数値を記載しなさい。
- 雨水排水施設の図面表記については、凡例に従い、図示しなさい。

4. a-a' 断面図の(縮尺100分の1)作図について

- 造成設計、通路設計、排水設計を踏まえ、凡例に従い設計上の計画断面図(断面ライン)を作図しなさい。
- 断面図は、仕上げ高さ部の単線表示とし、舗装や縁石、桝等の構造物等は図示しなくてもよい。
- 断面図の変化点に合わせて、寸法と仕上げ高さ(m単位、小数点第2位)を凡例に従い図示すること。
- また、寸法線の数値とともに施設名(通路、芝側溝、雨庭)を図示しなさい。

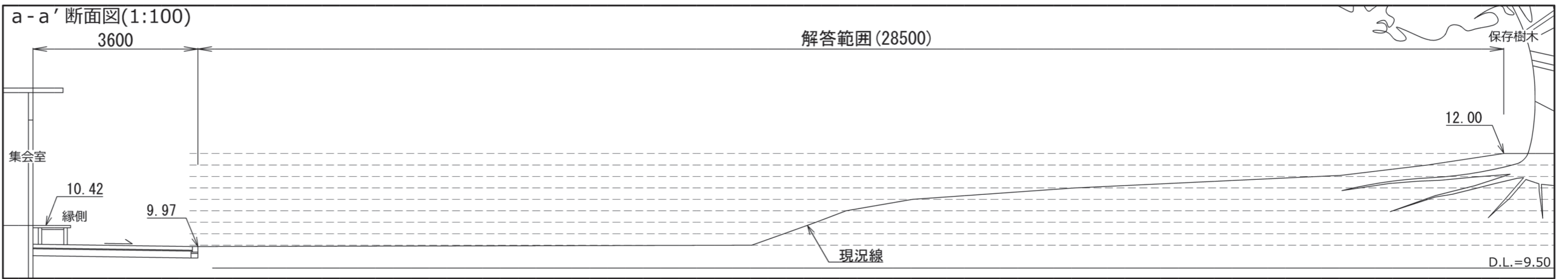
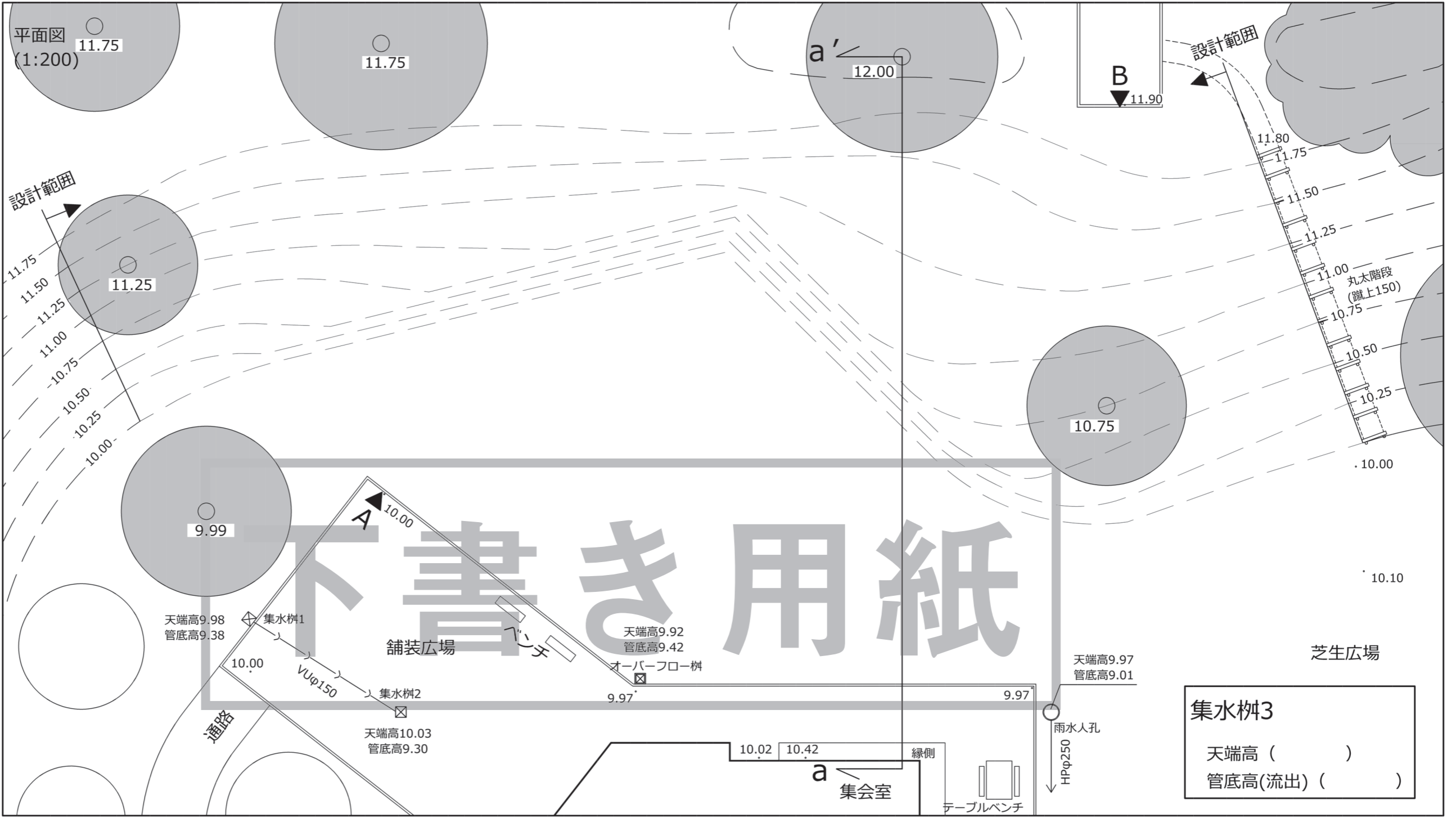
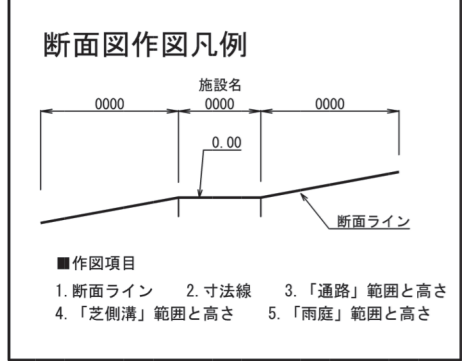
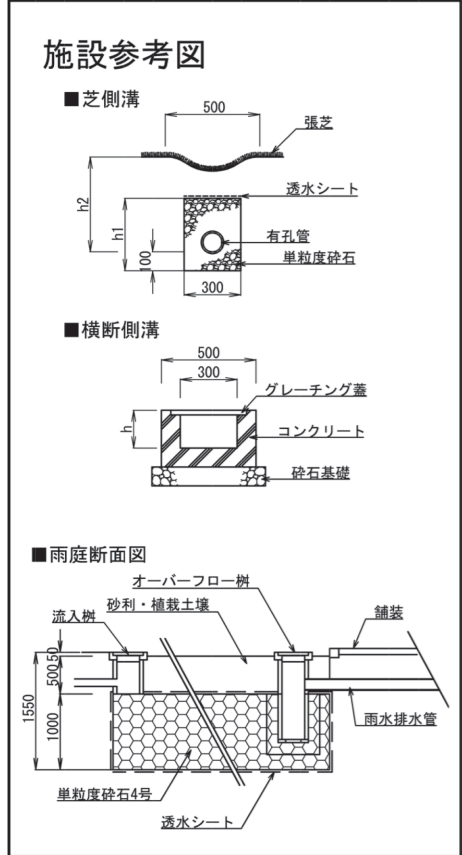
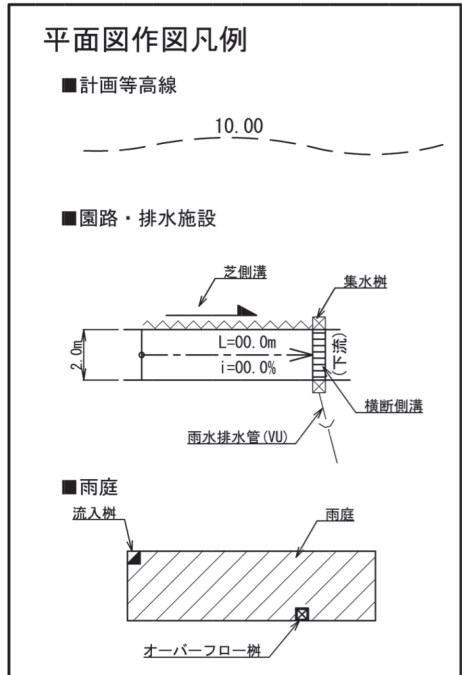
■解答における留意事項

- 作図は、凡例に従って分かりやすく表現すること。

■設計対象地位置図



No. 3	造成・排水設計	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect
	問題用紙	2	



No. 3	造成・排水設計	2	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	解答用紙ではありません
	問題用紙(下書き用紙)	2		

No. 4 植栽設計図を作成しなさい

(配点：20点)

■出題テーマ

「子どもの遊び場」と「親の見守り」に配慮した植栽設計

■課題

企業の託児所に隣接する敷地内に、託児所の園庭となる遊び空間の整備計画がある。敷地条件や設計条件を踏まえて、あなたが考える植栽設計の考え方を記述するとともに、「子どもの遊び場」と「親の見守り」に配慮した設計対象区域内の植栽設計を行うこと。

計画されている遊び空間は、託児所の子ども（幼児：1歳～5歳）の遊び場、送迎やイベント時に親と子ども、子どもの兄弟（学齢児童：6～12歳）と一緒に安全に楽しく遊んで過ごせる空間として位置づけられている。

施設構成は、以下の通り。

- ・「コモンハウス」：トイレ、簡易ダイニング、多目的集会室、カフェテラスのある集会所（約110㎡）
- ・子どもの遊び場-1「幼児の遊び場」：コモンハウスに近接する、砂場、スイング遊具、広場による、1～3歳児程度の遊び場（約320㎡）
- ・子どもの遊び場-2「築山の遊び場」：築山の斜面や遊具による、4～5歳児程度のアクティブな遊び場（約1,100㎡）
- ・「多目的広場」：全年齢児が駆けまわられる広場（約280㎡）
- ・「食育広場」：食べられる実のなる木や草木等、屋外キッチン、野外卓のある食育の広場（約450㎡）

以下の設問について、各敷地条件・設計条件を満たす植栽設計を解答用紙に記入しなさい。

- 設問1. 解答用紙に示す6つの地域の中から、あなたが設計を行う地域を一つ選び、選択した地域の枠内に「レ」を記入しなさい。
- 設問2. 選択した地域の郷土種であり、シンボルツリーとなる高木を設定し、樹種名・形状寸法を記述しなさい。
- 設問3. 「幼児の遊び場～築山の遊び場」のうち、解答用紙に示す植栽設計の考え方を記述しなさい。
- 設問4. 「幼児の遊び場～築山の遊び場」の上記考え方を示す植栽平面図を作成しなさい。また、考え方に沿った相応しい樹種名と形状寸法を記載しなさい。
- 設問5. 断面位置 a-a' に対し、植栽設計の考え方が読み取れるような植栽の断面図を作成しなさい。また、考え方の補足説明を文章と矢印などの記号を用いて明記しなさい。

■敷地条件

- 託児所とその南側に新たに計画される遊び空間は、企業社員とその家族が利用するプライベート空間であり、対象地の外周はフェンス（H1.8m）で囲われ、託児所側のメイン出入口からアクセスし、北東側道路側に管理用出入口が設置されている。
- 敷地西側には企業の倉庫（H=7.0m、鋼板製金属色壁）が隣接して立地している。
- 敷地南側には車道（2車線）、河川堤体（H2m）のジョギングコースが周辺住民に利用されている。
- 敷地南側の河川には鉄道橋が架かり河川堤体から鉄道橋を渡る電車がよく見えるため、子どもの遊び場ゾーン2「築山の遊び場」として、土手越しに電車を眺める築山（H2.3m）が計画されている。

■設計条件

A. コモンハウスゾーン：郷土種によるシンボルツリーの植栽設計

- コモンハウスの玄関脇に位置する樹木（A）をシンボルツリーとする。

B. 子どもの遊び場ゾーン-1, 2：に配慮した植栽設計

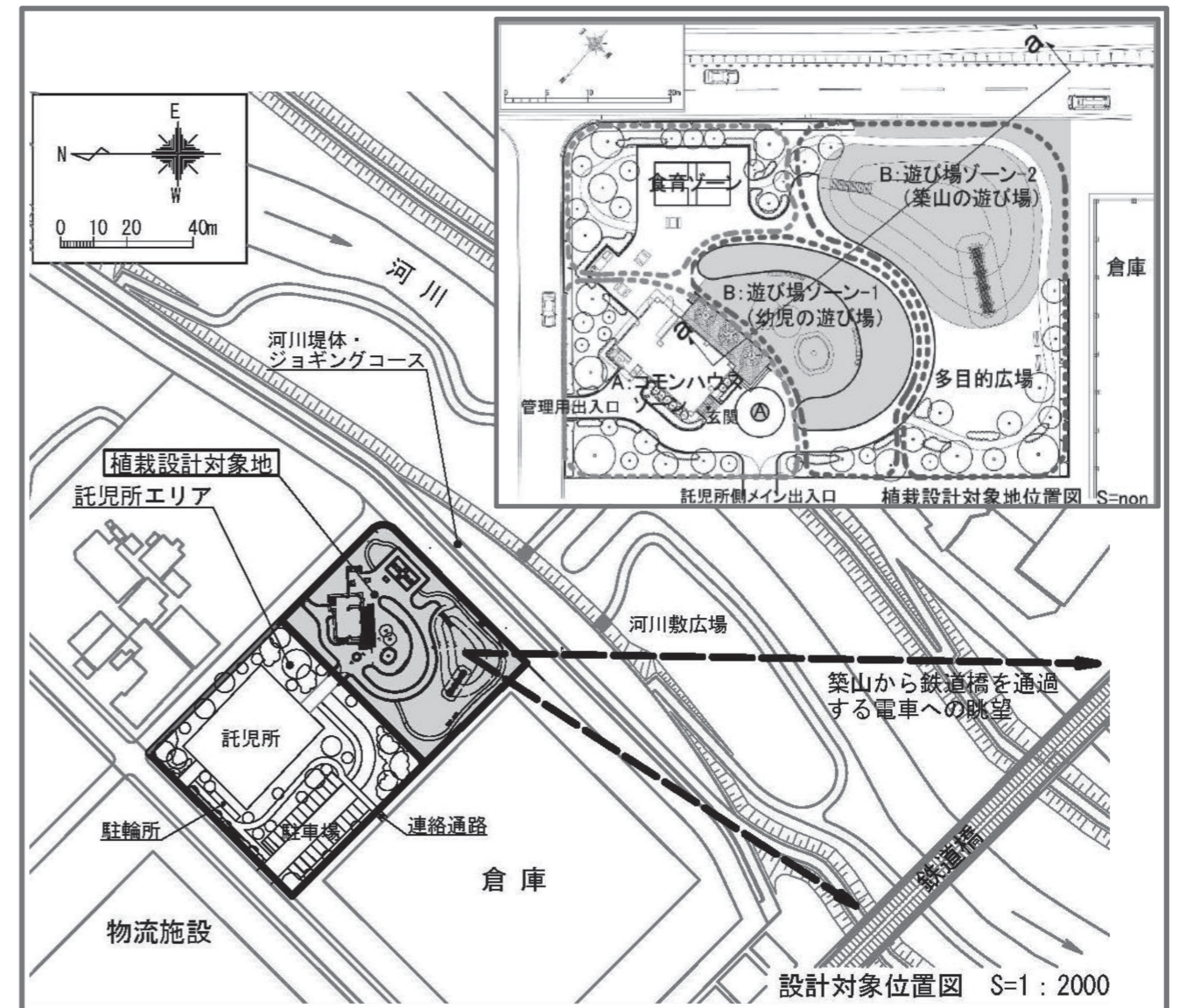
- 1～3歳児程度が利用する「幼児の遊び場」、4～5歳児程度が主体に学童児童6歳以上も利用する「築山の遊び場」について、全年齢層が利用する「多目的広場」にも配慮し、安全に楽しく遊んで過ごせる空間、プライベート空間となるよう配慮した植栽設計とすること。

- 利用する幼児の年齢層に応じて変化する親の見守りに方に配慮し、時にはゆったりとカフェテラスで過ごしながらか子どもを見守ることもできる空間となるようにも配慮した植栽設計とすること。
- 倉庫、車道、河川堤体・ジョギングコース、河川・鉄道橋、託児所の周辺環境、遊び空間内の各施設における空間特性に配慮した植栽設計とすること。

■解答における留意事項

- 設計する植物は、常緑・落葉、高木・中木・低木・地被類等を適宜自由に設定して良いが、選択した地域での生育、植栽設計の考え方に沿ったものとする。
- 植栽設計の平面図に図示する植栽は、解答用紙に記載した凡例記号（B1,B2 など）を記入すること。また、図中に表示する樹木の大きさ（枝張り）は、植栽から5年後程度を想定して表現すること。
- 凡例に記入する植物の名称（樹種名）は、和名または学名で記述すること。また、該当する区分を○で囲むこと。
- 凡例に記入する植物の形状寸法は、市場性に考慮した植栽時の寸法を記入すること。
- 凡例の記号はB1～B2までであるが、必ずしも全ての欄を埋めなくても構わない。樹種数は植栽設計の考え方に沿って決めること。

■設計対象位置図



No. 4	植栽設計	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect
	問題用紙	2	

【設問1】選択する地域

- 北海道 東北・北陸 関東・中部
近畿・中国 九州・四国 沖縄

【設問2】A:コモンハウスゾーン

記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
A	高木(郷土種-シンボルツリー)				

【設問3】B:子どもの遊び場に配慮した植栽設計

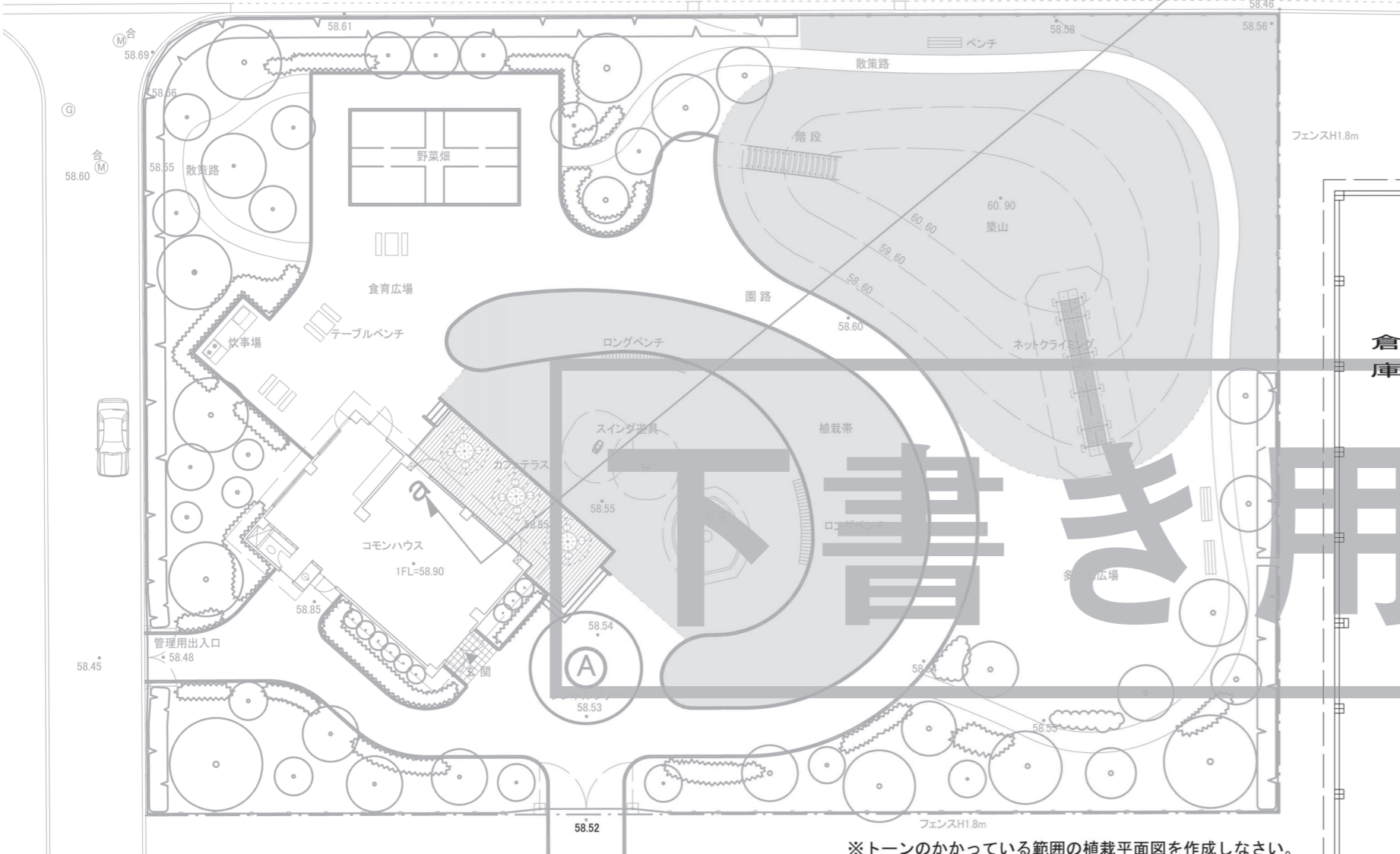
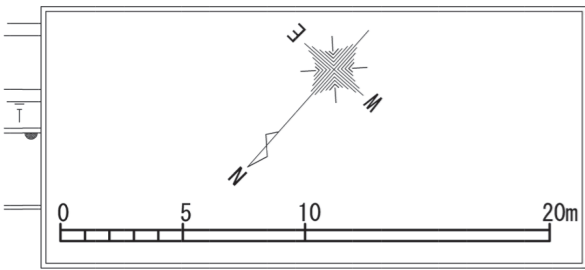
1. 安全に楽しく過ごせる空間、プライベートな空間を創る植栽設計の考え方

2. 親の見守り方に配慮した空間、親がゆったり過ごせる空間を創る植栽設計の考え方

3. 計画地外及び計画地内のゾーンや各施設の空間特性に配慮した植栽設計の考え方

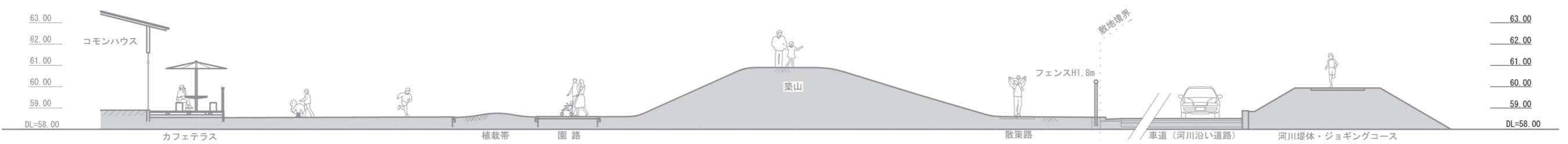
【設問4】B:子どもの遊び場ゾーン 植栽凡例

記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
B1	高木・中木・低木・地被類				
B2	高木・中木・低木・地被類				
B3	高木・中木・低木・地被類				
B4	高木・中木・低木・地被類				
B5	高木・中木・低木・地被類				
B6	高木・中木・低木・地被類				
B7	高木・中木・低木・地被類				
B8	高木・中木・低木・地被類				
B9	高木・中木・低木・地被類				
B10	高木・中木・低木・地被類				
B11	高木・中木・低木・地被類				
B12	高木・中木・低木・地被類				



平面図 S=1:300

※トーンのかかっている範囲の植栽平面図を作成しなさい。
 ※解答用紙に記載した凡例記号 (B1, B2など) を記入しなさい。



a-a' 断面図 S=1:200

No.	植栽設計	2	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	解答用紙ではありません
4	問題用紙(下書き用紙)	2		

No. 5 詳細図を作成しなさい

(配点：20点)

■出題テーマ

池に面した眺望と休憩空間の詳細設計

■課題

本設計対象地は、住宅地に囲まれ都市内に残る貴重な水生植物（抽水植物）が生育する池を持つ公園である。

本設計は、公園の中で最も池の眺めが良い場所において、水生植物（抽水植物）を保全しつつ、園路及び親水休憩施設を新設し、豊かな自然を感じながら自然観察や車椅子利用者が安全に利用できる散策動線・空間を創出するものである。

以下の設問について、敷地条件や設計条件を満たす断面図を作成すると共に、詳細図の作成に関して配慮した点を簡素に記述しなさい。

設問1. 設計対象範囲内に現況の自然環境を保全しつつ、池の外周に「水生植物エリア～休憩眺望エリア～園路～林縁保全エリア」を整備し、A-A断面図を完成させなさい。

設問2. 人の利用や自然環境に配慮した園路整備に際し、以下の敷地条件や設計すべき項目を満たす、材料の選定、施設の構造、工法などに配慮した点を3つ挙げその内容を記述しなさい。

■敷地条件

- 本公園は、水生植物（抽水植物）や野生動物等が生息する豊かな生態系が形成され、より自然を感じることができる空間とする必要がある。
- 設計対象地は、池を周回する既設管理用通路があるが、舗装されておらず歩きにくいことから、池の周りを散策できる園路を整備する。
- 設計対象地の後背樹林には郷土種を主体に構成された豊かな樹林があり、保全する必要がある。

■設計条件

1. 水生植物エリア

- 水生植物エリアでは、安全対策として水中のロープ柵を維持しながら、生態系や景観に留意して水生植物（抽水植物）による幅1.0m以上の植栽すること。
- 水際には親水空間を確保し、生態系や景観に配慮した土留めを設けること。

2. 休憩眺望エリア

- 休憩眺望エリアは、池への眺望や自然観察ができる空間とすること。なお、注意喚起サインが既にあり、転落防止柵は設けなくてよいこととする。
- 休憩眺望の場として幅2.0mを確保し、園路から平滑にアクセス出来るものとする。
- 舗装面は池側に横断勾配2%以下の水勾配を確保し、仕上げ高さ（少数点第2位）を記載すること。
- 休憩眺望エリアは園路と縁切りし、園路と異なる補造材を用いて、休憩場として分かりやすくデザインすること。
- 池を眺める位置にベンチ（解答用紙「施設断面図」）を設けること。なお、ベンチ座面の素材などの仕様について引き出し線を用いて記載すること。

3. 園路

- 園路は、管理車両が通行できる幅3.0mを確保すること。
- 園路と山側の雨水が池に直接流入することを防ぐように地中に透水させ、かつ、横断勾配を確保する。
- 園路の舗装材は、自然環境、景観性及びバリアフリーに配慮した設計とし、管理用車両（2t車程度）の荷重に耐える構造とすること。

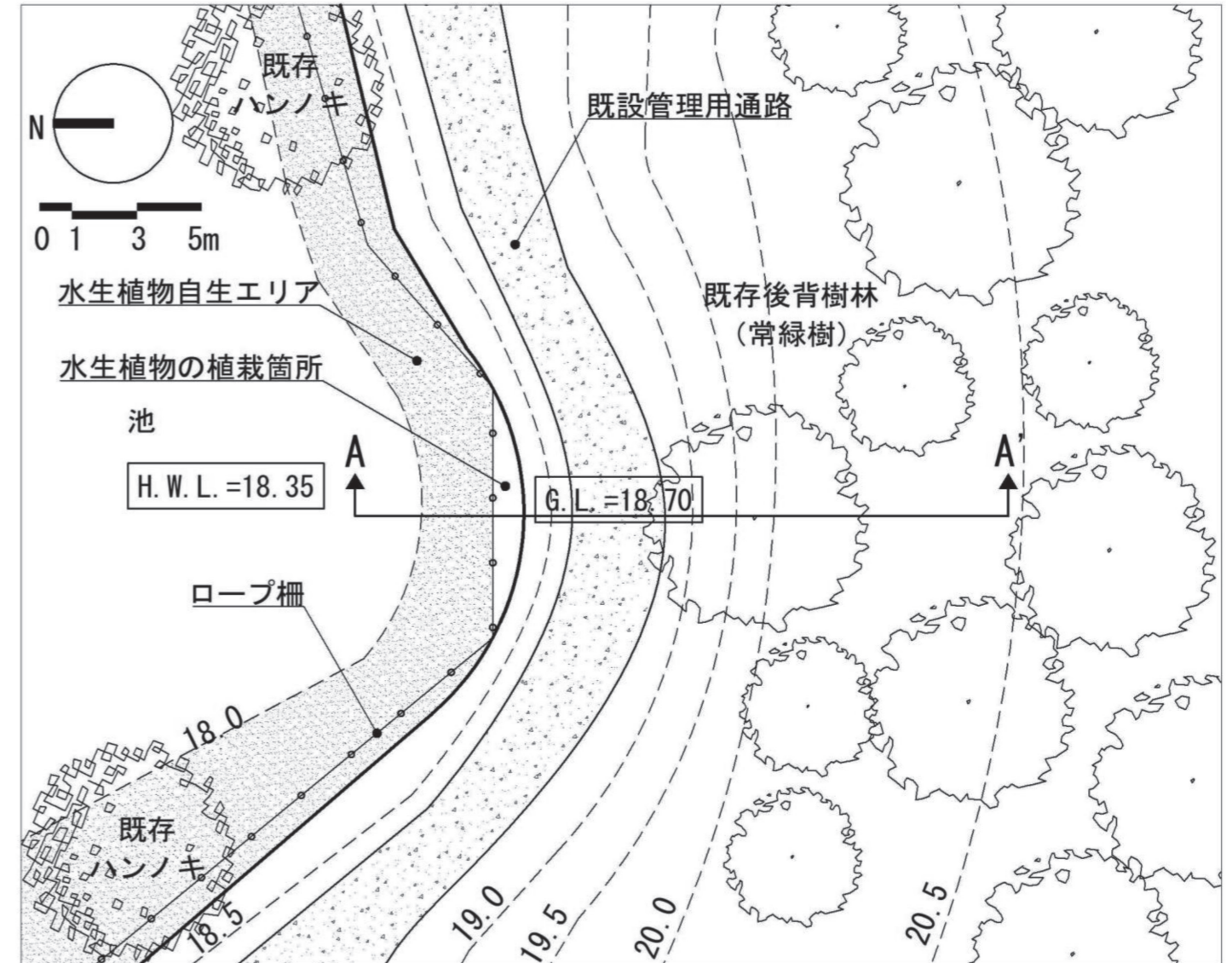
4. 林縁保全エリア

- 林縁保全エリアは、後背樹林の木漏れ日の下で休憩できる空間とすること。
- 園路の整備に伴い後背樹林との間に生じる高低差は、後背樹林への影響が最小となるように処理すること。高低差処理は、周囲の発生自然石（φ400～600内外、控え400内外）を利用した自然環境と調和する工法を選定すること。
- 高低差処理により発生する裸地などは、自然環境の回復に配慮すること。
- 後背樹林からの雨水、園路などからの雨水が滞水しないように、凡例に示す雨水排水施設（解答用紙「施設断面図」）を設計すること。

■解答における留意事項

- 断面図における施設の相互関係や仕様がわかる寸法、材料、仕上げ高さなどを明記すること。
- 各材料は、引き出し線を用いて概算工事費の算出に必要な規格及び名称などを明記すること。

■平面図

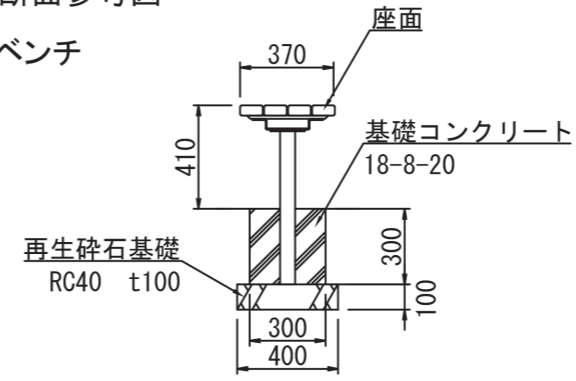


No. 5	詳細図	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect
	問題用紙	2	

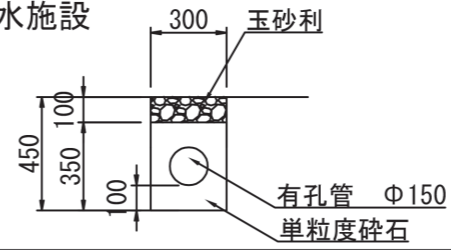
材料の選定、施設の構造、工法など配慮したポイントについて記述しなさい。

施設断面参考図

■ベンチ



■雨水排水施設



設計対象範囲

下書き用紙

GL=20.0

GL=19.0

GL=18.0

GL=20.0

GL=19.0

GL=18.0

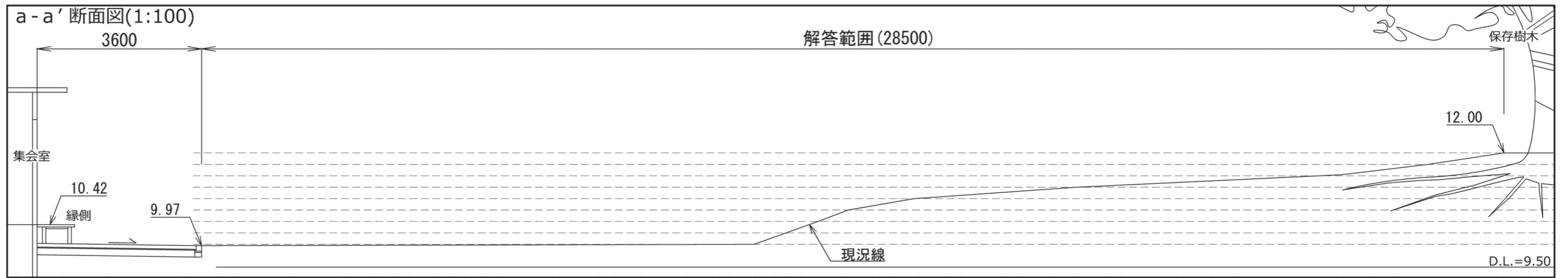
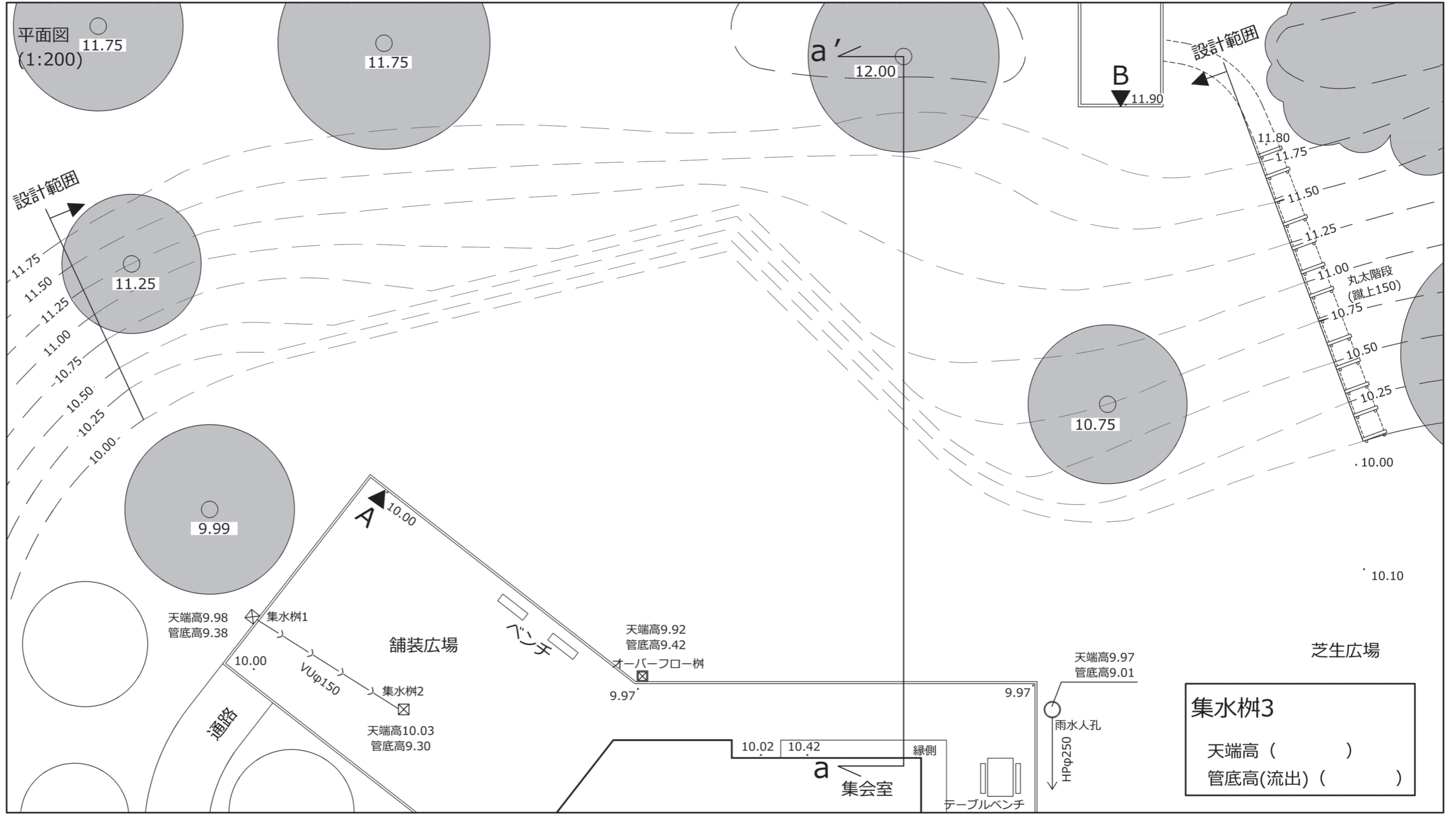
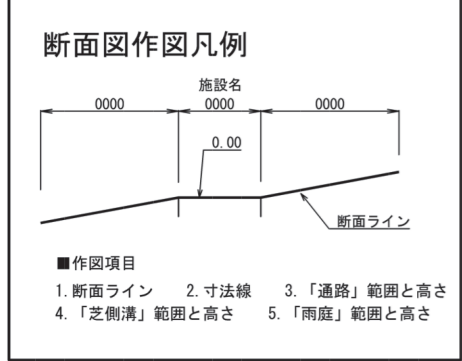
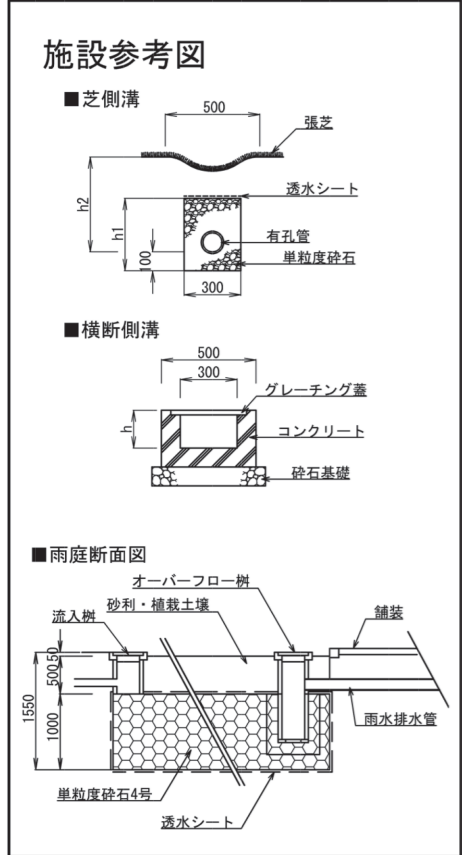
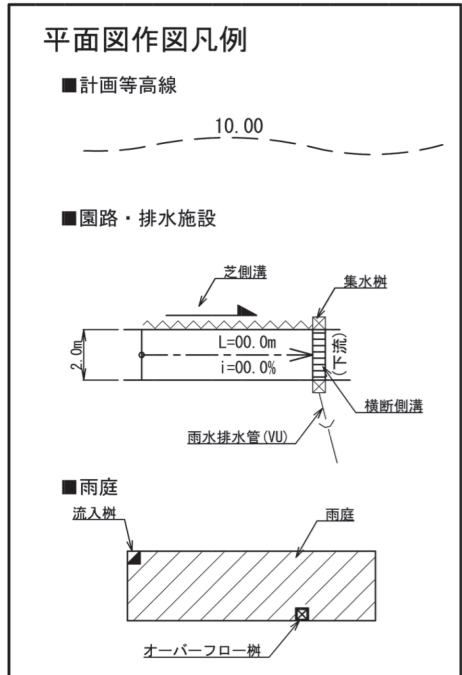
▽H.W.L18.35

丸太ロープ柵(既存)

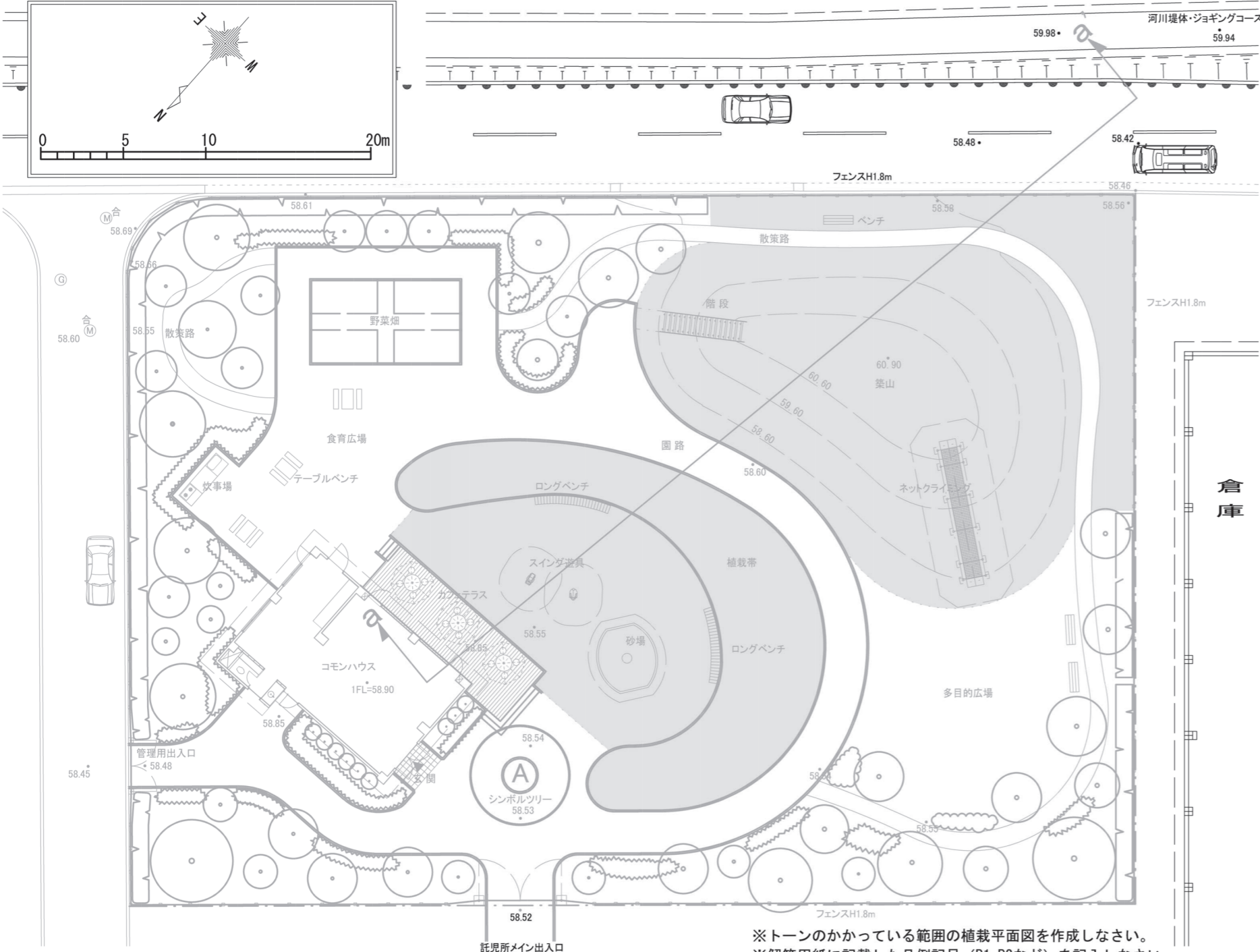
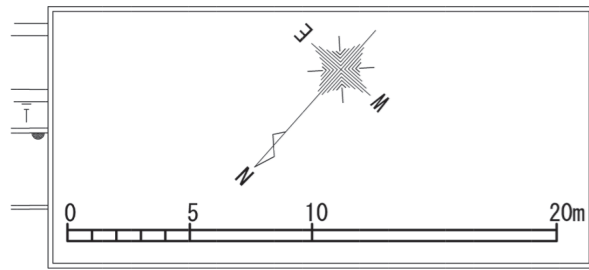
S=1:30



No.	詳細図	2	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	解答用紙ではありません
5	問題用紙(下書き用紙)	2		



No. 3	造成・排水設計	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	受験 番号			
	解答用紙	1					



平面図 S=1:300

※トーンのかかっている範囲の植栽平面図を作成しなさい。
 ※解答用紙に記載した凡例記号 (B1, B2など) を記入しなさい。

【設問1】選択する地域

- 北海道 東北・北陸 関東・中部
- 近畿・中国 九州・四国 沖縄

【設問2】A:コモンハウスゾーン

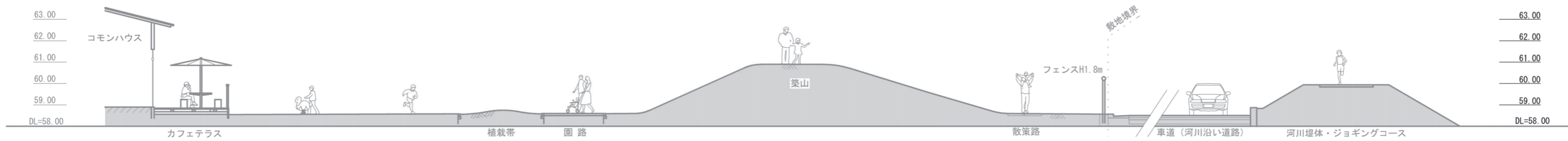
記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
A	高木(郷土種-シンボルツリー)				

【設問3】B:子どもの遊び場に配慮した植栽設計

1. 安全に楽しく過ごせる空間、プライベートな空間を創る植栽設計の考え方
2. 親の見守り方に配慮した空間、親がゆったり過ごせる空間を創る植栽設計の考え方
3. 計画地外及び計画地内のゾーンや各施設の空間特性に配慮した植栽設計の考え方

【設問4】B:子どもの遊び場ゾーン 植栽凡例

記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
B1	高木・中木・低木・地被類				
B2	高木・中木・低木・地被類				
B3	高木・中木・低木・地被類				
B4	高木・中木・低木・地被類				
B5	高木・中木・低木・地被類				
B6	高木・中木・低木・地被類				
B7	高木・中木・低木・地被類				
B8	高木・中木・低木・地被類				
B9	高木・中木・低木・地被類				
B10	高木・中木・低木・地被類				
B11	高木・中木・低木・地被類				
B12	高木・中木・低木・地被類				



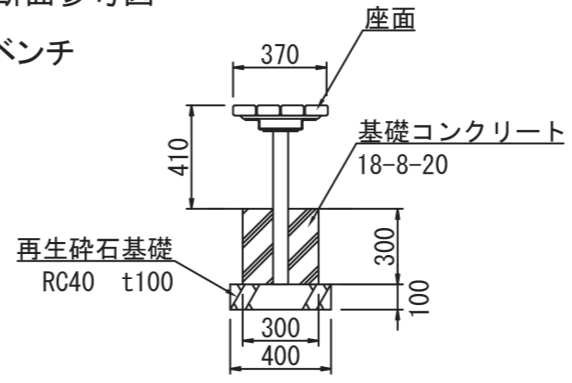
a-a' 断面図 S=1:200

No. 4	植栽設計	1	RLA 資格認定試験	受験番号			
	解答用紙						

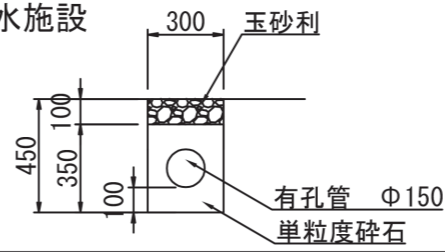
材料の選定、施設の構造、工法など配慮したポイントについて記述しなさい。

施設断面参考図

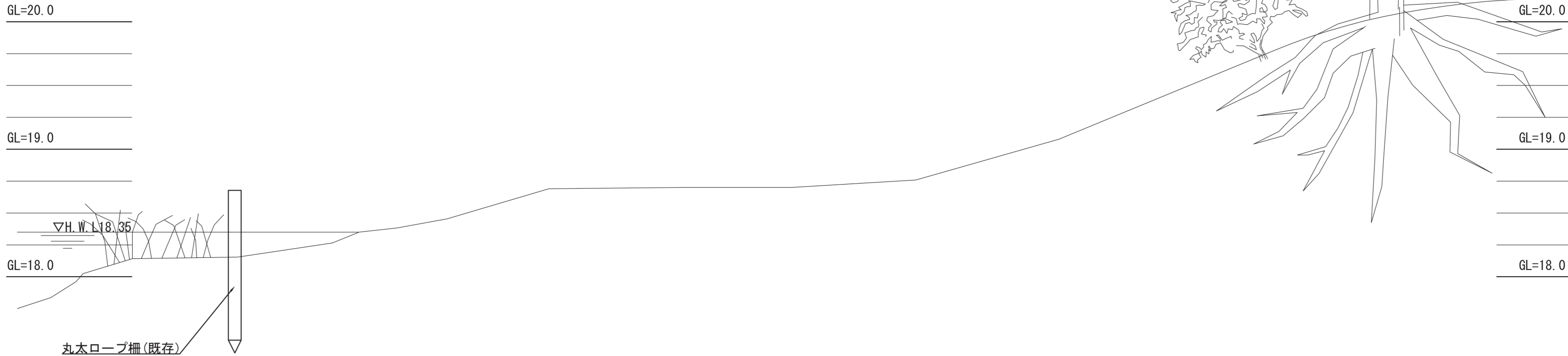
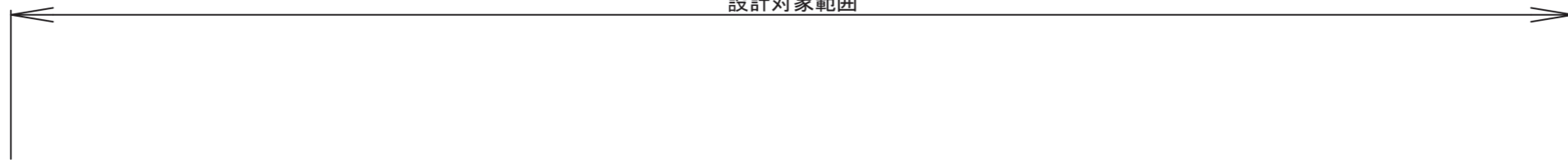
■ベンチ



■雨水排水施設



設計対象範囲



S=1:30



No. 5	詳細図	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	受験 番号			
	解答用紙	1					